

Pickup NEWS

デジタル関連機器の総合展示会「WPC EXPO 2005」が東京ビッグサイトで開催
家電とPCの相互接続で、新しいライフスタイルを提案する数多くの展示

WPC EXPO 2005 が10月26日から29日まで、東京ビッグサイトで開催された。今回のテーマは「感動と創造、未来を拓く! デジタル・ルネッサンス あなたが変わる、ビジネスが変わる!」で、ユビキタス時代の技術革新が生み出す新しいライフスタイルとビジネスシーンにフォーカスを当てた展示が繰り広げられた。

新製品の展示で賑わった携帯電話

KDDIは、WPC EXPOの直前に発表した新サービス「Hello Messenger」のデモを行って多くの来場者を集めていた。このサービスでは、最大5人のメンバーとチャット風にテキストや画像を送受信でき、またトランシーバーのような音声通話「プッシュアウトーク」も利用できるが、デモをしていたのはチャットの方。女子高生を意識したサービス内容だ。

一方、ウィルコムは11月中旬から順次発売が予定されている新PHS端末の実機を多数展示していた。この展示会が初めてのお披露目ということで、会場は大盛況。実際に京セラの「WX300K」と「WX310K」に触った感じでは、従来の



機能的には携帯電話に勝るとも劣らない京セラの「WX310K」。Operaフルブラウザを搭載し、Bluetoothにも対応。

「AH-K3001V」の「もっさり感」が払拭されていたのが印象的だった。

マイクロソフト「メディアオンライン」
マイクロソフトは、Windows XP Media Center Edition (MCE) 2005 向けの新サービス「メディアオンライン」のデモを行い盛況だった。

メディアオンラインは、リモコン操作で映像 / 音楽配信サービス、オンラインショッピングなどが利用できる Windows XP MCE 向けのサービス。これまで米国では提供されていたが、ついに日本でも WPC EXPO 2005 の初日である10月26日にサービスが開始された。

無線 LAN 対応デジタルカメラ

キヤノンのブースでは、10月25日に発表されたばかりの無線 LAN 対応コンパクトデジタルカメラ「IXY DIGITAL WIRELESS」を展覧していた。

無線 LAN の機能は IEEE 802.11b に準拠。製品に同梱されるワイヤレスプリントアダプター「WA-1」を PictBridge に対応したプリンタに接続することで、直接



Windows XP MCE 2005 のブースでは「メディアオンライン」をアピール。対応サービスを紹介していた。

画像のプリント操作が行える。

また、無線 LAN 対応の PC と接続すると、離れた場所に置いたカメラを遠隔制御することが可能だ。

期待される HDD の新規格「iVDR」

HDD の新規格「iVDR (Information Versatile Disk for Removable usage)」は、大変興味深いものだった。

iVDR は、CD や DVD のようにプレーヤーから取り出して持ち運べる HDD。Serial ATA に準拠し 1.5Gbps の高速転送が可能、900G 以上の耐衝撃性を備え振動に強い、著作権保護技術に対応などの特徴を備えている。



KDDI の「Hello Messenger」のデモは、クイズにチャットスタイルで答えるというもの。童心にかえて楽しめた。



「IXY DIGITAL WIRELESS」をステージで紹介するキヤノンのブース。詳細な機能よりも新しいライフスタイルを訴求。

「Personalized Homepage」「Desktop 2」「Personalized Search」「Analytics」そして「Base」 新サービスを矢継ぎ早に提供し、さらに勢いづくグーグル

またまたグーグルのサービスラッシュが始まった。この2か月間で登場した新サービスを一気に紹介する。

Personalized Homepage(9月15日)

Personalized Homepageは、Googleのシンプルな検索ページに最新のニュース、天気、株価などを表示する、カスタマイズ可能なポータルだ。「Google ホームページをパーソナライズ」と書かれた箇所をクリックすると、カテゴリと詳細リストが表示され、希望するリストの「追加」ボタンを押すだけで最新の情報をホームページに表示させることができる。

Desktop 2(11月3日)

「Desktop 2」は、従来の検索に加えて、ユーザーの利用状況を学習して必要と思

われる情報を表示する機能を装備した。

サイドバーは画面の右側にパネルとして表示され、ニュースやRSSフィードなどをパーソナライズして表示できる。

Personalized Search(11月10日)

Personalized Searchは、ユーザーの過去の検索傾向に基づいて、検索結果の表示を最適化するサービス。

たとえば、「apple」の検索結果からMacintoshのページをクリックした場合は、再度「apple」を検索すると、コンピュータ関連のページが優先して表示される。

Analytics(11月14日)

Analyticsは、アクセスログ解析サービス。訪問者の行動分析や、コンバージョン達成プロセス上の問題点の把握、

各種検索エンジンやキーワードの収益性などがわかる。

Base(11月16日)

Baseは、オンラインデータベース登録サービス。あらゆる種類の情報が無料で登録できる。利用例として、人材情報や、中古車の売買情報が紹介されている。



「EPIC 2014の世界にまた一歩近づくのか?」と注目されていたGoogle Baseが登場。

マイクロソフト、インターネットベースのソフトウェアサービスに参入 個人向けの「Windows Live」と小規模企業向けの「Office Live」を発表

米マイクロソフトは11月1日(米国時間)、インターネットベースのソフトウェアサービス「Windows Live」および「Microsoft Office Live」を発表した。

Windows Liveは、個人向けのサービス。RSS、Ajax(非同期JavaScript + XML)といった最先端テクノロジーを搭載したスタートポイント「Live.com」(日本ではLive.jp)、Outlookのようなユーザーインターフェイスを備えたウェブメー



Live.comは、さまざまな情報源からお気に入りのコンテンツを取得し、好みのレイアウトで表示できる。

ル「Windows Live Mail」、インスタントメッセージのほかにファイルや写真の共有、PCからの呼び出し機能などを備えた「Windows Live Messenger」といったサービスが提供される。

一方、Microsoft Office Liveは、従業員10人以下の小規模企業をターゲットにしたサービス。当初は、インターネットサイトの構築、企業内部および外部の主要ビジネス処理の自動化、従業員・パートナー・顧客とのコラボレーション環境の提供を目標にする。

これらのサービスは単独で使うこともできるが、Outlook、Excel、Office Live Meetingなど、Office製品と統合することも可能。Office Liveのサービス範囲は今後も継続的に拡大していく予定だ。

<http://www.live.com/>

マイクロソフトCEOのバルマー氏が来日 注目のLiveサービスについても言及

11月16日、マイクロソフトのCEOであるスティーブ・バルマー氏が来日し、今後登場する新製品と日本での取り組みについて語った。

バルマー氏は、16日に発表されたSQL Server 2005やVisual Studio 2005、12月10日発売のxbox 360をはじめ、今後18か月が新製品ラッシュとなると紹介。また、グーグルへの対抗として注目されるWindows Live、Office Liveにも触れ、米国と日本は、このサービスを投入する最初の市場になると語った。



バルマー氏。手前は限定販売されるウィンドウズ20周年の記念パッケージ。

CEOのニクラス・センストローム氏が来日し会見 イーベイによる買収を「ベストな選択」と強調

11月7日、日本で初めてのSkype Technologies S.Aによる公認イベント「Skype Day in Japan」が開催された。これに合わせて同社の創業者でCEOのニクラス・センストローム氏も来日し、記者会見を行った。

9月にイーベイによる総額26億ドルもの買収が発表されたことで、質問もそれに関連したものが多かった。

イーベイとのパートナーシップを選択したことについては「戦略的パートナーとして考えた場合、1億人を越えるユーザー数を持つことと、オンライン決済システムであるペイパルを持つことが魅力だった」と語り、ビジネスを拡大するためにさらなるユーザー数と決済システムが必要だったと述べた。

また開発費が経営を圧迫していたのではとの質問に対しては、スカイプの売上げ

の多くが公衆回線との接続サービス「Skype Out」によるものだとかきらかにした上で、財務状態は順調であり今回の買収が資金よりも、イーベイと連携することのメリットを求めてのものだと強調した。

多額の資金を手に入れたことで、新たな事業展開が期待されるが、センストローム氏は「我々は通信事業者ではなくてソフトメーカー」「今後もボイスによるオンラインコミュニケーションを扱っていく」と、これまでの路線を維持していくことを強調した。



ニクラス・センストローム CEO

アマゾンの新物流センターが開業 新たに書籍の「立ち読み」機能も

アマゾンジャパンは同社5周年となる2005年11月1日、新しく2つのサービスを開始した。

1つは新物流センターである「アマゾン市川フルフィルメントセンター」の開業だ。千葉・市川市という立地は最も大きな市場である首都圏に位置し、海外窓口の成田にも近い。4階建ての巨大な建物の延べ床面積は6万2300平方メートルで、これは旧物流センターの4倍の規模となる。週7



アマゾンの新しい流通拠点「アマゾン市川FC」。ここから書籍などの商品が国内外へ発送される。

日の稼働で24時間以内に発送可能な商品を増やしていく予定だ。

もう1つの「なか見!検索」は、すでに米国などで提供されている書籍検索サービスの日本版。これまでは書籍名や著者名など一定の情報しか検索できなかったが、新サービスではコンテンツまで全文検索が可能。また、検索語の記載されている誌面そのものを閲覧できる。



「なか見!検索」の画面。立ち読みしながら実際の誌面が表示された。

NTTドコモとタワーレコードが資本提携 おサイフケータイの活用などを目指す

NTTドコモとタワーレコードは11月7日、業務提携を目的とした資本提携で合意したと発表した。NTTドコモは、11月下旬を目途に増資引受などによって、タワーレコード発行済株式総数の約42%の普通株式を約128億円で取得する予定だ。

この提携により、NTTドコモは今後提供を予定しているおサイフケータイを活用した新クレジット決済サービスのモデル店としてタワーレコードを位置付け、決済サービスの導入を検討していく。また、おサイフケータイの機能「トルカ」などと連携したサービスやポイントサービスなど、新しいサービス環境の整備も検討する。

さらに、携帯電話での楽曲試聴サービスの充実や、新譜・アーティストなどに関する音楽情報配信についても充実を図り、携帯電話と音楽を融合した新たな利用シーンを開拓していく。

「政府インターネットテレビ」が開局 Real PlayerとWindows Media Playerに対応

内閣官房は11月10日、政府の動向や政策を動画で紹介する「政府インターネットテレビ」を開局した。

12のチャンネルが用意されており、当初は総理大臣の1週間の公務をまとめて紹介する「らいおんウィークリー」のほか、「ビデオで見る総理」「総理記者会見」「官房長官記者会見」「大臣のほんねとーく」「改革NOW」「構造改革探訪」「オンライン動画コンテンツ」「CMライブラリー」などのチャンネルで番組が配信される。

<http://nettv.gov-online.go.jp/>



総務省、ケータイ新規参入事業者を認定
BBモバイル、イー・モバイル、アイビーモバイルの3社

総務省は11月9日、BBモバイル、イー・モバイル、アイビーモバイルの3社から申請があった「1.7GHz帯および2GHz帯の周波数を使用する特定基地局の開設に関する指針に基づく開設計画の認定」について認定を行うと発表した。

BBモバイルは、W-CDMA方式を採用し、2007年度中に音声通信サービスおよびデータカードによる通信サービスを全国規模で提供開始する予定。

イー・モバイルは、同じくW-CDMA方式を採用し、2006年度中にデータ通信カード型端末でサービスを開始。音声通話サービスも2007年度中に開始する予定。

アイビーモバイルは、TD-CDMA方式を採用し、データ通信サービスを中心に2006年10月にサービスを開始する予定だ。

携帯電話向け新コンテンツビジネス
「ニワンゴ」11月にサービス開始

「いろメロミックス」など携帯電話向けコンテンツ事業を手がけるドワンゴは、子会社として株式会社ニワンゴを設立し、11月末から携帯電話のメールを利用した情報検索サービスを開始する。

ニワンゴは、メールでユーザーが知りたい情報を送ると検索結果をメールで返してくれるサービスで、収益源は照会結果のクリック報酬型広告が中心になる。

ドワンゴがキャリアの公式サイトとして有料課金モデルで成長したのに対し、ニワンゴは無料の勝手サイトで、ドワンゴグループの新事業拡大への布石と位置付けられている。

ニワンゴは、2ちゃんねるの管理人である西村博之氏を取締役に迎え、コミュニティサイトとも連携しながら、新しいケータイビジネスを目指すとしている。

<http://niwango.jp/>

ECナビが研究開発成果をユーザーに
提供する「ECナビラボ」をスタート

価格比較サイトを運営するECナビは、インターネットサービスやソフトウェア技術の研究開発をユーザーが体験できる実験的なウェブサイト「ECナビラボ」を開始した。

第1弾として公開されたのは「ECナビ人気ニュース版」。いわゆるソーシャルブックマークサービスで、興味を持ったニュースやウェブサイトをブックマークし「キーワード(タグ)を付けると、ユーザー同士で共有できるというもの。

ECナビラボでは、開発者が次世代のサービスを研究する過程で開発した技術を実験的に公表していき、ユーザーからのフィードバックを元に、改良を進めていく。また、開発者によるブログも解説しており、そこで積極的にユーザーの意見を募って開発に生かしていく。

<http://labs.ecnavi.jp/>

SSHサービスに対する攻撃が増加
JPCERT/CCが2005年第3四半期の活動を報告

JPCERTコーディネーションセンター(JPCERT/CC)は11月7日、2005年第3四半期(7月~9月)の活動報告を行った。

運用グループマネージャーの伊藤求氏からは、セキュリティーインシデントについて報告が行われた。

これによると、四半期で報告された全664件のインシデントのうち、SSHサービスに関するものが230件を占めた。また日本語のログイン名を狙ったブルートフォースアタックパスワード総当たり解析も増加しており、これまで比較的安全とされていたものも見破られやすくなってきているという。

情報流通対策グループマネージャーの椎木孝斉氏は、脆弱性関連情報について報告した。

この四半期で公開した脆弱性情報は31件で、うち国内が14件、海外の提携組織からの報告が17件で「国際的なコー

ディネーション案件が増加した」のが今期の特徴だという。

早期警戒グループマネージャーの伊藤友里恵氏からは、早期警戒活動についての報告がされた。

この早期警戒は、一般に対する啓蒙活動のほか、内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)によって指定された電気や通信など社会インフラとなる10分野の企業や機関に向けて、次善に情報を提供するというものだ。



運用グループマネージャーの伊藤求氏

連続ITセミナーイベント「カンデジ大学」
「第2学期」セミナーの受講者募集中

関西ソーホー・デジタルコンテンツ事業協同組合と扇町インキュベーションプラザ・メビック扇町は、共同で連続ITセミナー「カンデジ大学」を9月より開催してきたが、「第2学期」セミナー全20回を11月2日より2006年2月10日まで開催する。

第2学期は、デジタルハリウッド大学院が全面協力となり、代表取締役社長兼CEO 藤本真佐氏がITベンチャー論を語るのを始め、4名の講師陣がそれぞれのノウハウを伝授する。

ほかにも、ライブドアマーケティング 島元大輔氏の「Webサイト構築ディレクションの極意」、関西デジタルプレス編集長 野々下裕子氏によるライター業のツボ伝授など、さらに充実したカリキュラムとなっている。

http://www.kansai-soho.or.jp/seminer/kandigi_univ/

内線 VoIP ネットワークの電話番号を一括管理
ヤマハ電話帳サーバー「RTV01」が10月下旬に発売

10月下旬に発売となった「RTV01」は、ヤマハ VoIP ゲートウェイ「RTV700」「RT57i」専用の電話帳サーバーだ。

これまでは、拠点の増減があるたび、各拠点ごとに VoIP ゲートウェイで個別に電話番号を管理する必要があったが、RTV01では電話番号を集中管理し、運用管理負担の大幅な軽減が可能となる。これにより、内線 VoIP 導入による通信コスト削減、電話番号の一括管理、運用・管理負担の軽減を実現し、中小規模向け VoIP システムの安価で簡単な構築が可能だ。

また、内線 VoIP ネットワークの強化機能として、BRI/COT を利用した内線 VoIP ネットワークで「事業所番号」に対応して低コストを実現するほか、冗長構成でシステムダウンを回避する「冗長機能」、拠点数拡大や障害に備えた分散運用に

よる管理でリスクを軽減する「サーバー連携機能」、同一の事業所番号内での同時通話数を最大60通話処理が可能な「ハンドグループ機能」などを有する。

設定面でも GUI を導入した設定・管理で管理者の負担を軽減。CSV ファイルの入出力に対応し、CSV ファイルでの電話帳設定、通話・障害履歴、統計情報の出力にも対応している。

<http://netvolante.jp/products/rtv01/>



希望小売価格は207,900円(税込)。他のヤマハ製品と同様、STATUSランプで周辺機器との接続性を表示。背面には LANポート×4、ファームウェアの更新に便利なDOWNLOADボタンを有する。

楽器をインターネットに接続
ヤマハ、「インターネットダイレクトコネクションサービス」をWPC EXPO 2005で展示

ヤマハは、WPC EXPO 2005において「Music@Home」と題し、世界初となるインターネットへ直結するネット楽器、インターネットダイレクトコネクションサービス対応機種を展示した。

インターネットダイレクトコネクションサービスは、USB-LANアダプターを使って楽器を有線または無線で接続。ブロードバンド環境とルーターさえあれば利用できるサービスだ。



MIDI データをやりとりするインターネットセッション。あくまでも実験ということなので、今後の情報に注目したい。

同サービスでは、無料基本サービスと、月額630円(税込)で全コンテンツが利用できる固定サービスを用意。内蔵の液晶モニターを見ながら、専用ブラウザでヤマハのNetMusicTownにアクセスし、「弾きホーダイ」「歌いホーダイ」「ミュージックストリーム」「12平均律占い」などのコンテンツを選択し、ストリーミングで自由に楽しむことができる。また、PCを使って接続すれば、気に入った楽曲のMIDIデータや楽譜の購入も可能。

イベント期間中は、遠距離セッションの実験を毎日開催。離れたブースをインターネットでつなぎ、未来のミュージックライフの姿として伝えていた。

<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/net/>

日本エフ・セキュア、Linuxサーバー向け
「F-Secure Linuxサーバセキュリティ」を発表

日本エフ・セキュアは、Linuxサーバー向けの総合セキュリティ製品「F-Secure Linuxサーバセキュリティ」の受注を11月1日より開始、11月15日に出荷を開始した。Linuxサーバセキュリティでは3つのスキャンエンジンによる高性能ウイルス対策を実現。リアルタイムウイルス検索、ファイアウォール機能、不正侵入防止機能を有する。管理画面はウェブベースの日本語 GUI を使い、Linux 初心者でも簡単に設定、管理が可能だ。

また、無償で提供される「F-Secure ポリシーマネージャ」を利用すれば1万台以上の Windows および Linux のサーバーや PC を集中管理することができる。

価格は1サーバーあたり8万8千円(税別)で2年目以降4万4千円(税別)。数量に応じた割引も用意している。

<http://www.f-secure.co.jp/>

米 TippingPoint が新たな IPS 製品を発表
次世代ファイアウォールとして訴求

11月14日、米 TippingPoint は IPS(侵入防御システム)の新製品「X505」を発表した。

同社は、今年1月に米3Comによって吸収合併されたが、今回の製品は両社が共同で企画した初の製品となる。

同社では、IPS製品を「次世代のファイアウォール」と位置づけ、IDS、VLANスイッチ、ファイアウォールの機能を統合し、よりセキュリティを高めるソリューションとして訴求していく。

日本では、株式会社テリロジーが代理店となって扱う。12月からの発売で、価格は90万円程度になるという。

<http://tippingpoint.com/X505/>

<http://www.terilogy.com/>



エムビーワン・テックラボ

電話対応CMS「WAAV」バージョン 2.0 をリリース

エムビーワン・テックラボは9月1日、携帯電話対応コンテンツマネジメントシステム「WAAV」のバージョン 2.0 をリリースした。

WAAVは、電子メールアドレスとパスワードでログオンするウェブアプリケーションサーバー。ブログ、メーリングリストとしても機能できる掲示板をベースにウェブメール、アンケート、ダウンロードフォルダー、ショッピング、カレンダー、予約サービスなど多数のコンテンツドライバーと、ウェブベースの管理・レポート画面を備えている。

今回リリースされたバージョン 2.0 では、より簡単にデザインやメニューを変更できるように管理者専用のツールバーを装備するとともに、EzWeb / ドコモ / ボーダフォンの絵文字に完全に対応した。

<http://www.techlab.co.jp/>

イー・アイ・アイ、IPアドレス地域認識技術を使い
都道府県別の動画配信を開始

動画配信サービス会社イー・アイ・アイ (AII) は、サイバーエリアリサーチ社の提供するジオロケーションテクノロジー (IPアドレス地域認識技術)「SURFPOINT-Enterprise」を導入し、都道府県別の動画配信を実現。10月8日より新番組の独占インターネット放送を開始した。

この動画配信は、動画を視聴するユーザーのIPアドレスから地域を判別、ユーザーが住む地域の放映スケジュールに合わせて動画を配信するというもの。

両社は11月2日に、さらに業務提携で合意。AIIの配信インフラおよび課金認証技術、ジオロケーションテクノロジーの融合により、テレビ局を始め、オープンインターネットでは難しいとされている地域別アクセス制御をかけた配信サービスの提供が可能になるという。

<http://www.aii.co.jp/>

ヤマハ、高性能センタールーター

イーサアクセスVPNルーター「RTX3000」を発表

ヤマハは高性能センタールーター「RTX2000」の上位モデル「RTX3000」を来年1月中旬の発売予定と発表した。

RTX3000では、さらなる高速ルーティング処理を実現。またVPNソリューション付加価値提供にも取り組み、QoSをより実用的な機能へと進化。「階層型QoS機能」「付加通知機能」「帯域検出機能」により、企業のベストエフォートに対する不信感を解決し、企業が要求する回線切断対策や帯域管理対策に応える。

スループットは、600Mbps、VPNスループットも400Mbpsを実現(双方向)。LANインターフェイスは10/100/1000×2、10/100×2の合計4ポート。オプションの拡張スロット、BRI(8ポート)モジュールとPRIモジュールによりISDNポートにも対応。価格は、49万8千円(税別)を予定している。

Event Calendar

これから開催される国内外の主要なIT関連イベントをご紹介します。イベント情報掲載希望の方は、次のメールアドレスまでご連絡ください。
im-release@impress.co.jp

期日	名称	場所	URL
11/30-12/2	2005 産学官技術交流フェア	東京ビッグサイト	http://www.nikkan.co.jp/eve/
11/30-12/2	Gartner Symposium/ITxpo 2005	ホテルグランパシフィックメディア(会場)	http://www.e-gartner.jp/symposium2005/
11/30-12/3	2005 国際ロボット展	東京ビッグサイト	http://www.nikkan.co.jp/
11/30-12/3	第7回 図書総合展	パシフィコ横浜	http://nii-mag.nii.ac.jp/j.x?v=51&u=3282
12/1-12/2	Network Security Forum 2005	大手町サンケイプラザ	http://www.idg.co.jp/expo/nsf/
12/5-12/8	Search Engine Strategies	シカゴ(米国)	http://www.jupiterevents.com/sew/fall05/
12/6-12/9	IPv6 Summit 2005	レストン(米国)	http://www.usip6.com/
12/7	第二回迷惑メール対策カンファレンス	パシフィコ横浜	http://www.iajapan.org/anti_spam/event/2005/conf1207/
12/12-12/14	Syndicate 2005	サンフランシスコ(米国)	http://www.syndicateconference.com/live/38/
12/12-12/16	INTEROP New York	ニューヨーク(米国)	http://www.interop.com/newyork/
2006/1/6-1/8	International CES	ラスベガス(米国)	http://www.cesweb.org/
1/9-1/13	Macworld Conference & Expo 2006	サンフランシスコ(米国)	http://www.macworldexpo.com/
1/25-1/27	FC EXPO 2006(第2回国際水素・燃料電池展)	東京ビッグサイト	http://www.fcexpo.jp/jp/
2/1-2/3	NET&COM 2006	東京ビッグサイト	http://expo.nikkeibp.co.jp/netcom/
2/8-2/9	2006 Media Summit	ニューヨーク(米国)	http://www.digitalhollywood.com/MediaSummit.html
2/13-2/16	3GSM Congress	バルセロナ(スペイン)	http://www.3gsmworldcongress.com/
2/22-3/3	APRICOT	パース(オーストラリア)	http://www.2006.apricot.net/
3/6-3/9	Emerging Technology Conference	サンディエゴ(米国)	http://conferences.oreillynet.com/etech/
3/9-3/15	CeBIT	ハノーバー(ドイツ)	http://www.cebit.de/

上記の情報は変更になる場合があります。応募・参加の際には必ず主催者にお確かめください。

インターネットマガジン / 株式会社インプレスR&D

©1994-2007 Impress R&D

ピックアップニュース INTERNET magazine 2006 01 75



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp